

## 日本保健物理学会「教員等協議会・若手研・学友会」代表者会議（第6回）

日時：令和2年10月16日（金）9時～10時

参加者：教員等協議会：飯本（理事）、寺東

若手研：迫田（理事）、中畠、廣内、片岡、辻

学友会：仲宗根、小池

概要：

### 1. 若手研・学友会より

#### ● 企画行事について

##### ▶ メンバーからの質問・意見

- ・ アンブレラでも若手が少ないことが議題に上がるが、若手がこれについてどのように考えているかの報告はあるか

→ 現時点ではない。この活動でのまとめが非常に参考になる。

- ・ 企画行事の時間配分は決まっているか

→ 現時点では決まっていない。今から若手として要望を出し提示していく形で問題ない。若手・学生の時間、教員等協議会の時間と区分する必要はないのではないか。

- ・ 若手が発表できる機会があることには歓迎の意見が多い
- ・ 若手研・学友会はこれまで独自に勉強会を開催してきたので、メンバーの内訳等を含み活動周知・報告をするがよい

→ 教員等の抱く若手研・学友会のイメージを更新していくべき。総会資料では、活動情報の共有には不足で、若手研・学友会としての内容だけではなく、個々人の活動も共有できる場になると良いだろう

- ・ 1時間のプログラムとして、2週間を目途に開催案(タイトル、発表者等)をまとめる

#### ● 学会 HP 運営について

- ・ 若手研所属者の場合、謝金が発生すると兼職手続き等があり、結果的に難しい
- ・ 学生にアルバイト的に任せることには賛成。若手 or 事務局のフォローが重要
- ・ 担当日数内容を具体的に示せば学生がエントリーしやすいのでは
- ・ 学生でも DC をとっているとアルバイトができない
- ・ 留学生の参加は英語ページの充実にも寄与するか

#### ● 若手研 HP 運営について

- ・ 若手研が独自更新する件について、藤淵理事の了承済み(大きな変更時のチェックは必要)
- ・ 責任者選定等の具体的な運営方法の検討に入った

- ・今は学会 HP 運営のアルバイトの件より、若手研 HP を整備する方が優先度高い

- 安全管理学会と保健物理学会の今後の在り方アンケート：

#### 総論

- ・両学会の構成員は 50—60 歳代が半数を示すため、今後の会員数の減少が考えられる
- ・学会連携に賛成多数だが、反対意見についても一部理解ができる。判断が難しいと感じた。

#### 合同発表会や学会連携について

##### ▶ 利点

- ・人脈が広がる
- ・一度に様々な研究発表に触れることができる

##### ▶ 不利益点

- ・合同発表会では、両学会の実行委員会の負担が大きい。会場が大きくなり、十分に情報収集ができない

##### ▶ その他

- ・両学会とも若手が少ないため交流するシステムがあると良い
- ・両学会の成り立ちは異なり重点分野が異なるため、合同発表会や学会合併には慎重になるべき
- ・人材不足による活動、議論、予算縮小に不安を感じる。合同発表会で様子を見つつ学会の活動縮小の傾向が見られれば合併も視野に入れるべき

#### 「若手」の定義

- ・改定会則に年齢を明記する予定
- ・2—3 年前に 35 歳から 40 歳に上げた
- ・周知が十分でなかったため年齢による退会は本人に委ねられている部分がある。  
→ 曖昧になっているのであれば、明確な決まりはむしろ必要ないのではないか
- ・管理学会は、元来管理者が集う学会であるため、学生会員はほとんどいない。

- 千葉科学フェスタ参加報告

- ・日程：10 月 10 日
- ・内容：UV を利用したコースターづくり、霧箱展示
- ・参加者：親子 50 組ほど
- ・今年で 10 回目。保物学会誌に「話題」として投稿することを予定

- 勉強会

- ▶ ICRPPub.130 の輪講

- ・開催方法：Zoom(保物学会所有)
- ・現在の参加予定者：27名(シニアも3名ほど)、聴講のみの参加も可
- ・原子力学会・影響学会・放射化学会へも周知済み。安全管理学会にも声かけ予定
- 複数回実施後、講演会開催を予定
- 課題
  - ・学友会からの参加者がいない
    - 学友会宿題：参加しにくい、抵抗感があればその理由の解明

- 保物学会シンポジウム

- ・テーマ：「これからの若手のつながり方」「若手活動活性化への道筋」
- ・これまでの活動について利点・欠点を報告し、今後の若手のつながり方(他分野・他分野への周知範囲や方法)について考えていく
- ・若手が少なく、学友会はさらに少ない。関連学会に情報を拡散していくべき
- ・勉強会を企画すると、学会外からも申し込みがある。内容によってはニーズがあり、会員増加につながるかもしれない。
- ・正のスパイラルとなるように、評価される成果物につながる活動へ
- ・敷居を低くし参加者を増やすために、自由な雰囲気での懇親、留学生を取り込んだ英会話教室等の企画があるとよいのではないか

- 評価のされる成果物について

- ・千葉科学フェスタや勉強会等の活動について学会誌へ投稿することが一番取り組みやすい成果物になるのでは
- ・負担は増えるが勉強会の内容をさらに研究として展開し活動していくと、論文等成果物が増え、さらに魅力的になる
- ・学会や業界に対して功績のあった個人を、年齢別に表彰する仕組みも良い
- ・規制庁では学会活動の幹事を担当すると特記事項に書くことができるので、それがモチベーションにもなっている。
- ・学会の活動を地域連携などと結びつけ、人事評価に記載している。

- 次回日程

11/20 9:00-10:00

以上